近大、信州大破り3回戦進出

男子 第56回
女子 第55回
西日本学生バスケット
本社主催

第2日（29日、大阪府立体育会館ほか）

2年生・高野が16得点
主力休ませながら余裕の勝利

男子の2回戦31試合、女子の1回戦10試合を行い、男子は昨年の関西リーグ1部優勝の近大が93―74で信州大を下し3回戦に進出した。また、昨年、初戦で敗退した愛知学泉大は86―57で新潟経営大に勝利した。この日から試合が始まった女子は、創部2年目の京産大が登場したが、56―78で浜松大に敗れた。

近大	16	24	24	29	93
信州大	24	27	14	9	74

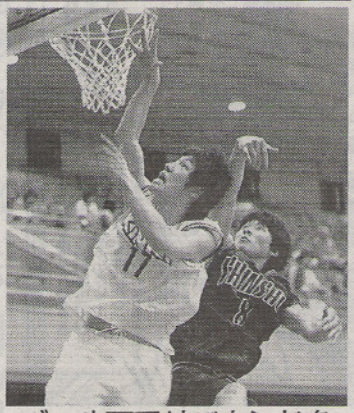
近大は第1クオーターで29―9とすると、主力を休ませながらも、信州大を振り切った。禿（かむろ）監督は「試合開始直後にペースを握れてよかった」と前日の1回戦に続く勝利に胸をなで下ろした。

昨年は金沢工大を相手にまさかの初戦敗退。「相手をナメていた」（禿監督）と気の緩みがあった。大会後、下級生も意見を出して、だらけた練習を改善。屈辱をバネにして、チーム一丸となり、関西リーグ1部で優勝を果たした。

05年リーグのリバウンド王の魏鑫（ウェイ・シン）ら4年生が卒業したが、下級生も成長した。2年生のF高野慶治がセンターにも入り16得点。「シンさんから、ガンガンぶつかれと言われたので」と、積極プレーでムードメーカーになっている。

禿監督は「去年と比べて小粒になったがまじめ」と新チームを評価する。狙うは4年ぶり2度目の優勝。関西王者が、わずか1試合で終わった昨年の分まで大暴れする。

（広川 継）



ゴール下でリバウンドを競う近大・高野（左）＝大阪府立体育会館（撮影・立川洋一郎）

初勝利ならず

＜女子・京産大＞創部2年目の今年も初勝利はお預けとなった。男子は大会最多14度の優勝を誇る名門だが、こちらはまだまだ発展途上。今年4月から男子部OBの浅井俊郎監督を迎え、部活らしい練習をスタートさせた。部の発起人の1人、主将のF岡田明子（4年）は「怖い監督が来てからチームが引き締まりました」と笑顔。現在の3部から2部昇格を目指し、8月中旬から関西リーグを戦う。

【男子】

▽2回戦

中部学院大 88―63 神戸大
愛媛大 89―76 比治山大
中部大 20―0 金沢星稜大＝棄権
広島修道大 71―53 関西外大
大阪学院大 139―48 和歌山大
大阪経法大 81―64 大阪体大
追手門学院大 83―66 近畿福祉大
九州東海大 102―80 愛知大
愛知学泉大 86―57 新潟経営大
名古屋外大 83―82 名城大
京都学園大 104―95 聖カタリナ大
倉敷芸科大 96―82 大谷大
徳山大 144―67 兵庫県立神戸
福岡大 118―73 川崎医療福祉大
九州共立大 88―67 桃山学院大
広島経済大 114―112 熊本学園大
浜松大 104―80 奈良教育大
徳島文理大 74―69 鈴鹿医療科学大
広島工大 106―71 神戸国際大
鹿屋体大 137―51 愛知教育大
金沢工業大 97―69 日本文理大
広島大 112―69 奈良大
名古屋商大 101―82 関西国際大
九州国際大 138―39 香川大
広島国際大 85―72 帝塚山大
関西福祉大 73―61 岡理科大
松山大 104―85 第一工大
福岡教育大 128―69 愛知工大
大阪体大 105―62 新潟工短大
金沢大学 128―53 芦屋大

【女子】

▽1回戦

奈良文化短大 84―59 北陸学院短大
愛媛女短大 88―56 同志社女大
園田学園女大 134―51 聖カタリナ大
佛教大 78―56 京産大
常磐会短大 92―50 徳島文理大
追手門学院大 72―55 同朋大
常葉学園短大 89―50 相山女学園大
中京女大 94―34 奈良女大
名古屋学芸大 94―21 近畿福祉大